



フォトドキュメンタリー
「NIPPON」
2004

2004年6月7日(月)→7月10日(土)
0:00P.M.~7:00P.M.(土曜日は5:00P.M.まで) 日曜休館 入場無料

Guardian
Garden
PRODUCED BY RECRUIT



1978年生まれ。2004年大阪芸術大学写真学科卒業。現在、スタジオ勤務。

明るく楽しく、全ての人が等しく幸福。我々はそんな理想郷を求め、家や公園や駅やショッピングセンターを作った。しかし、そのどれにも情味がない。全て人間が作ったものなのに人間がこもらない。人もそうだ。この理想郷の住人は決して隣人と目を合わせようとしない。寒々しい光景。孤独でネクラだ。そんな中で私たちの有機的な部分がどんどんと希薄になる。周りの人間がとてつもなく無機質に感じる。この、定規とブルドーザーで作った理想郷はまるでプラスチックの模型のようで体温がない。

会期 **1** 6月7日(月)→6月12日(土) 本田犬友 Inutomo Honda 「プラスチックの桃源郷」



1983年生まれ。2004年東京ビジュアルアーツ専門学校夜間部卒業。現在、フリー。

オープニングパーティー 6月14日(月) 6:00P.M.~7:00P.M.

会期 **2** 6月14日(月) → 6月19日(土) 中山可奈子 Kanako Nakayama 「風街ブルース」

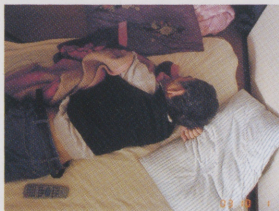
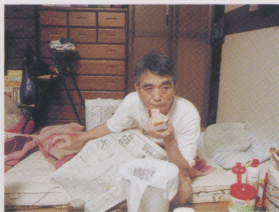
私は写真を撮っているとき、何の目的もなく歩き続けています。自分の興味ある場所へ行ったり、人混みの中をフラフラ歩いていたり。その時、私は、たぶん何も考えていません。行き交う人達の表情や仕草、目の前の気になる出来事。私には何の関係もなくすごい速さで通り過ぎてしまう。ここにある写真は、その時偶然出会った、どうしても撮りたくなった人、気になった瞬間、場所、現実。私にとって路上とは、素通り出来ない場所です。写真を通して、私は自分の見た世界を再認識する。



1963年生まれ。2001年、2002年 image box 東中野 参加。現在、会社員。

いつの頃からだろうか。街に色の断片が氾濫するようになったのは。無秩序に増殖するそれらは、街の光景を安物のおもちゃへと変えていく。そこには、自己の存在を主張するための、何らかのメッセージが込められていたはずなのに、それは行き先を失い、ただ、街を構成するパーツとして取り込まれていく。古くなったパーツは、新しいものに交換される。新しいパーツを得た街は、おもちゃとしての輝きを取り戻す。それは決して終わることなく、延々と繰り返される。いつも新しいおもちゃを欲しがる人間の手によって。

会期 **3** 6月21日(月) → 6月26日(土) 武田功 Isao Takeda 「toy city」



1980年生まれ。2002年日本写真芸術専門学校卒業。現在、フリー。

母はずいぶん前に他界。兄は沖縄。父と私は東京の郊外に二人で住んでいます。定年を迎えた父は、会社へ通っていた生活から一変、毎日家を過ごしています。私の高校の時の青いジャージを着て、好きな時に起きて、好きな時に寝る。そんな父を毎日デジカメで撮るようになりました。この写真が他人にどのように感じてもらえるか正直わかりませんが、私にとっては、とても重要な日々の記録です。これからもずっと撮り続けます。

会期 **5** 7月5日(月) → 7月10日(土) 田村俊介 Shunsuke Tamura 「父さん、そのジャージ 僕のです。」



1980年生まれ。2003年上智大学仏文科卒業。コルプス参加。現在、フリー。

浅草に惹かれ、浅草の一年間をテーマに、街で生きる人々や情景を撮影し発表した。しかし、並べられた写真をまえに、感覚的なズレを感じていた。そんなある日、浅草で生活する二人と出会った。二人の生活や対話を通して、そのズレを解決できるのではないかと思い撮影を開始した。浅草であってそうでなくていいような二人の生活をどれだけ表現できたかわからない。ズレは埋まったのか、あるいは新たなズレが生じたのか。それは、これらの写真がまとってみるまで待たなければならない。

会期 **4** 6月28日(月)→7月3日(土) 古賀絵里 Eri Koga 「浅草善哉」

フォト・ドキュメンタリー「NIPPON」は、21世紀の日本像をドキュメントしようとする試みです。若手写真家の眼を通してどんな日本が見えてくるのか、3年間に渡り模索してみたいと思います。「記録する」という写真の機能に誠実に、粘り強く人や社会と向かい合う、そんな作家、作品をご紹介します。

2004年、2005年、2006年と3年間、各4～5名ずつを展覧会で紹介し、2006年には総括して1冊の写真集にまとめて広く国内外に発信します。2004年度の応募には、全国からさまざまな作品が集まり、以下の選考員により5名の作品が選ばれました。

写真展と写真集で残す

21世紀のニッポン

Guardian
Garden

PRODUCED BY RECRUIT

「NIPPON」 2004・6

選考員／

小林キユウ(写真家)

土田ヒロミ(写真家)

鳥原学(写真研究家)

元田敬三(写真家)

ガーディアン・ガーデン

電話 55-1000

● ホームページでも作品の紹介をしていきます。

選考会での様子、出品者と選考員の対談など、随時ご紹介していきます。
<http://www.recruit.co.jp/GG/>

● 次回、2005年度作品募集

2005年3月締切予定

テーマは「日本」。オリジナルな視点で「日本」を写し出してください。
募集要項・応募用紙は、2005年1月以降お取り寄せください。



洋菓子ウエストの横の階段を降りて下さい

ガーディアン・ガーデン 〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5リクルートGINZA7ビルB1F